

分科会	小6年	郡市名	田原
提案者	田原市立亀山小学校		藤原 秀一郎

## 研究主題

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業  
6年「市民の願いを実現している？田原市 ～田原市の温泉開発について考えよう～」の実践を通して

### 1 はじめに

若者が政治に関心が無いことが問題となっている。国政選挙の投票率も、令和元年に行われた参議院選挙では、10代、20代は30%前半にとどまった。本学級の児童も、単元の始めに「政治」について質問したところ、「国会に興味はない」や「田原市にも議会があることを知らなかった」と、市政があることすら知らない状況であった。これは、政治について考えた経験が少なく、私たちの生活とのつながりを感じたことがないためであろう。このような児童だけで学びを深めていくことは難しいと考えた。そこで、他校種、専門家と共に学びを進めることにした。多様な物の見方や人々の思いに触れる中で、政治に関心を持ち、社会参画をしていこうとする子を育てたいと考えた。

そこで、以下のような子ども像を目指し、本単元を設定した。

【めざす子ども像】 仲間とかかわりながら、社会参画をしていこうとする子の育成
○「仲間とかかわりながら」の捉え 学習に携わるすべての人を指す。様々な立場の人々とかかわりながら学習を進める。 ・行政（選挙管理委員会・市役所観光課） ・身近な市民（福江高校普通科観光コース・渥美商工会） ・クラスの仲間・保護者
○「社会参画をしていこうとする子」の捉え 社会的事象に自分事として捉える中で、自分にできることを考え、社会的事象に関心を持ち続ける姿を示す。

### 2 研究の仮説と手だて

めざす子ども像に迫るために、以下のような仮説と手だてを考え、本研究を進めた。

〈仮説〉子どもにとって身近な社会的事象を教材化し、社会参画の段階に応じて、意図的に仲間とかかわる場を設定することで、社会参画をしていこうとする子を育成できるであろう。
---

#### 【手だて1】子どもにとって身近な社会事象を教材化した単元構想

田原市の観光政策の一つである温泉開発を教材化する。田原市は人口減少が問題となり、特に亀山校区のある旧渥美地区ではその問題が顕著である。現在、田原市は「住んでみたい・訪ねてみたいまちづくり」の一環で、旧渥美地区で温泉開発を行っている。この温泉開発には、それを要望した「渥美商工会」や人口減少を止めたい「市役所」など、様々な人の思いが込められている。また、同じ旧渥美地区には、観光の力で渥美半島に入ってくる人を一人でも増やし、出ていく人を一人でも減らすことを志している「福江高校普通科観光ビジネスコース」の生徒達がいる。田原市を活性化したいと願うこのような人々の思いに触れることで、田原市の政治に関心をもつであろうと考えた。

## 【手だて2】仲間とかかわりながら社会参画の段階を高める学習モデルの開発

### ①段階的カリキュラムの構成

	社会参画	仲間とかかわり
1	社会とかかわりに気付く。	行政(選挙管理委員会)
2	社会的事象に関心をもつ。	行政(市役所観光課) 身近な市民(福江高校・渥美商工会)
3	自分事として考える。	行政(市役所観光課) 身近な市民(福江高校) 保護者
4	自分にできることを考える。	身近な市民(福江高校)
5	社会的事象に関心をもち続ける。	行政(市役所観光課)

このように社会参画の段階に合わせて、意図的に仲間とかかわらせていく。

### ②遠隔教育システムの活用

遠隔教育システムとは、離れた場所同士で映像や音声などのやり取りを行うシステムである。これを活用することで、物理的な距離について心配することなく、多様な物の見方や専門的な内容を何度も聞き、意見を伝え合うことができる。これを繰り返すことで、社会的事象を自分事として捉え、自分にできることに思考を巡らすようになると考えた。

・福江高校普通科観光ビジネスコースとかかわり(全4回、内3回遠隔教育システム活用)

- ①質疑応答(温泉開発や田原市の魅力について)
- ②助言(市民調査の調査項目について) ※メールでのやり取り
- ③話し合い参加(問いについて)
- ④プラン練り合い(温泉活用プラン作成について)

・市役所観光課とかかわり(全3回、内2回遠隔教育システム活用)

- ①質疑応答(田原市の現状と温泉開発について)
- ②話し合いのゲストティーチャー(問いについて)
- ③児童によるプラン提案(温泉活用プランについて) ※亀山小来校

## 3 検証の方法

仮説における手立ての有効性を検証するために、A子を抽出児とする。A子の変容を、ノートの記事や授業記録、対話記録から分析し、仮説の有効性を検証していく。

〈抽出児A子について〉

A子は、どの学習にもまじめに取り組むことができる。知的好奇心が高く、進んで調べ、調べて分かったことから自分の気づきや考えを書くことができる。しかし、政治のこととなると関心がないようである。アンケート【資料1】を見ると、国・田原市、共に政治に関心があるかどうかの質問に対して、5段階で1の評価であった。このようなA児に前述の手立てを講じることで、社会参画していこうとする子になってほしいと考えた。

**【資料1】 アンケート①**

・国の政治に関心がありますか。5段階評価  
理由 1

よくわからない。何のためなのか だれのため

・国の政治について知っていることを答えて下さい。

あべマスクがくばわれた。  
あべ そうりをし、てる。

・田原市の政治に関心がありますか。5段階評価  
理由 1

よくわからない。何のためなのか だれのため

・田原市の政治について知っていることを教えて下さい。

よくわからない。

## 4 研究の実践と考察

### (1) 【手立て1】子どもにとって身近な社会事象を教材化した単元構想

【資料2】のような単元を構想し，【手立て2】をそれぞれ位置付けて，実践に取り組んだ。

手立て2 【資料2】 単元構想 全20時

社会 参画	学習活動	*教師の支援【仲間】〈評価〉				
社会とのかかわり(実践)	<p><b>国がどんなことをしているのか考えたことない。田原市でも政治をしているなんて知らなかった。</b></p> <p>日本国憲法と私たちはどうつながっているのかな①②</p> <p>○立場に分かれて憲法について学ぼう。</p> <p>・子どもにも国民権が関係あるんだ。・日本国憲法で守られているんだ。</p> <p>国の政治と私たちはどうつながっているのかな③④⑤</p> <p>○国会・内閣・裁判所・国民の役割を調べ、関係を図に表す。</p> <p>・私たちの税金の使い方を決めている。・選挙で願いを反映させることができるんだ。</p> <p><b>○模擬選挙をしよう。</b></p> <p>・政治に関心をもつことは大事。田原市の政治はどうだろう。</p>	<p>*日本国憲法とのつながりを感じるため、大人と子どもに立場を分け、学習を行う。</p> <p>*政治と国民とのかかわりに気付くために、図に整理する。</p> <p>*模擬選挙を行い、政治と国民とのかかわりを体感する。【田原市選挙管理委員会】〈日本国憲法や国の政治と自分とのかかわりに気付くことができたか。〉</p>				
社会的参画に関心をもち	<p>田原市の現状はどうか⑥</p> <p>・キャベツなど日本一の農産物がある。・人口が減っている。田原美地区も。</p> <p>⇒市民の願い【人口が増えて欲しい。もっと田原市に人が来てほしい。】</p> <p><b>学習問題「田原市は市民の願いを実現しているのかな」</b></p> <p>田原市はどんな取り組みをしているのかな⑦</p> <p>○「議会だより」「広報たはら」「広報たはら・スクールレポート福江高校」を読む。</p> <p>・議会は「住んでみたい・訪ねてみたいまちづくり」をめざしているんだ。</p> <p>・温泉を掘削しているんだ。どうして掘ることが決まったのかな。</p> <p>○ビデオ上映(福江高校紹介)</p> <p><b>問い①どうして温泉を掘ることが決まったのかな</b></p> <p>○調べ方を整理し、温泉を掘ることになった経緯について探求活動を行う。⑧⑨</p> <p>『読み取り』教科書 『聞き取り』市役所 『ネット見学』議会</p> <p>要望 → 市役所 → 市議会 → 着工</p> <p>温泉商工会 → 計画、予算(税金) → 採決、市議会議員 → 温泉掘削</p> <p>○温泉ができると田原市はどうなるのか考える。⑩</p> <p>・温泉ができると人が集まりそう。・福江高校の人にも聞いてみたいな。</p> <p><b>○福江高校に温泉開発について話を聞く。⑪</b></p> <p>・今のままではよくないかも。・みんな温泉についてどう思っているのかな。</p>	<p>*問題点に気付くことができるように、田原市と田原美地区の人口推移が分かるグラフを提示する。</p> <p>*「議会だより」「広報たはら」を提示し、市議会や【福江高校】に興味をもつきっかけにする。</p> <p>*身近な市民として【福江高校】を紹介する。</p> <p>*行政の考えを知るために、議会中継をネットで視聴したり、【市役所】とビデオ会議を行ったりする。</p> <p>*どんな思いで要望したのか知るために【温泉商工会】に聞き取りを行う。</p> <p>*新たな視点に気付くために、【福江高校】に「市民の意識」について話をしてもらう。</p> <p>〈田原市温泉事業に関心をもちることができたか。〉</p>				
自分事として考え	<p>『温泉開発について市民はどう思っているのかな⑫⑬』</p> <p><b>○福江高校に調査の仕方、調査項目などを相談する。</b></p> <p>『調査』小学校の児童とその家庭に依頼</p> <p>『調査項目』温泉開発の認知度は? ・田原市の魅力は?</p> <p>・温泉ができればたくさんの方が来ると思うか?</p> <p>⇒温泉について全然知らない。これで市民の願いは実現されるのかな。</p> <p><b>問い②温泉開発によって市民の願いが実現されるのかな</b></p> <p><b>○問いについて考え、話し合う。⑭⑮【本時15/20】</b></p> <p>・温泉ができてたくさんの方が来れば、新しい仕事生まれ、人が増えるから。</p> <p>・温泉半島の先端にできるから、その道中でお金をつかってもらえるから。</p> <p>・温泉だけでなく、市民が変わらなければ、人は変わらないと思うから。</p> <p>田原市は市民の願いを実現しようと努力している。</p> <p>私たち市民がもっと地元に関心をもち、よさを知らないといけない。</p> <p>私たちにもできることをやりたい。</p>	<p>*調査の仕方・調査項目について【福江高校】に手紙を通して相談をする。</p> <p>*大人の意見を知るために【保護者】に協力を依頼する。</p> <p>*学習問題に迫るために、話し合いに【市役所】【福江高校】が遠隔で参加する。(市役所)市民に関心をもちってもらうこと、(福江高校)地元のよさに気付く大切さ、について触れてもらう。</p> <p>*次の問いへ意識が向くように、【市役所】の方に温泉活用プランを考えることを提案してもらう。</p> <p>〈問いに対して自分なりの考えをもつことができたか。〉</p>				
自分ごととして考える	<p><b>問い③「田原市×温泉」田原市ハッピープランを考えよう</b></p> <p>○田原市の自慢できるところを考える⑯</p> <p>・農業が盛ん ・サーフィンが有名 ・自然が豊か ・食べ物がおいしい</p> <p><b>○プランを考える。⑰⑱⑲(福江高校にアドバイスをもらう。)</b> ☆</p> <table border="1" data-bbox="223 1881 1005 1993"> <tr> <td>食べ物×温泉 温泉を使った 食べ物の紹介</td> <td>サーフィン×温泉 サーフボードを見 せたら入湯料半額</td> <td>サイクリング×温泉 サイクリングの休憩所 に足湯の設置</td> <td>市民×温泉 市民は入湯 料無料</td> </tr> </table>	食べ物×温泉 温泉を使った 食べ物の紹介	サーフィン×温泉 サーフボードを見 せたら入湯料半額	サイクリング×温泉 サイクリングの休憩所 に足湯の設置	市民×温泉 市民は入湯 料無料	<p>*案を考えられるように、福江高校に教えてもらった田原市の魅力を参考にする。</p> <p>*よりよいプランになるように、【福江高校】と遠隔による合同授業をし、実現度とハッピー度からの評価と、アドバイスをもらう。</p> <p>〈自分にできることを考えることができたか。〉</p>
食べ物×温泉 温泉を使った 食べ物の紹介	サーフィン×温泉 サーフボードを見 せたら入湯料半額	サイクリング×温泉 サイクリングの休憩所 に足湯の設置	市民×温泉 市民は入湯 料無料			
心をもたせ続ける	<p>○市役所に提案する⑳</p> <p>・温泉でたくさんの方が集まるといいな。</p> <p>・温泉事業がこれからどうなっていくのか、楽しみだな。</p> <p><b>私たちがもっと市や国の政治に関心をもちたいといけな。田原市がもっとよくなっていくといけな。</b></p>	<p>*社会参画を体感するために、【市役所】に提案する。</p> <p>〈今後も市政に関心をもちることができたか。〉</p>				

## (2) 【手立て2】仲間とかかわりながら社会参画の段階を高める学習モデルの開発

### ①社会とのかかわりに気付く

日本国憲法について学習した後、国の政治について学んだ。ここでは、社会と自分とのかかわりに気付いてほしかったので、選挙について学習する際に、田原市選挙管理委員会に出前授業をお願いした。田原市選挙管理委員会の方には、投票率の低さや、選挙に行くことでみんなの願いが反映されることについて話してもらった。さらに、模擬選挙【資料3】を行った。本物の投票用紙や投票箱を使ったので、児童は緊張した様子であった。投票用紙が破れにくかったり、最初の方が投票箱の中身を確認したりすることを体験したことで、一票をととても大事にすることを実感できた。A子の体験終了後の感想【資料4】の下線部「私たちがいつも主役なんだと思いました」「(若者が選挙に行かないことについて、)私はそんな大人になりたくありません」という記述からは、社会とのかかわりに気付く、自分から政治にかかわっていきたくて意欲をもったことが読み取れる。



【資料4】 授業後の感想

で、私たちがいつも主役なんだと思いました。今の若者は選挙をしないので、政治にはついていけません。私はそんな大人になりたくありません。あと政治に参加し、国のためにがんばります。

【資料4】の感想文には、私たちがいつも主役なんだと思いました、(若者が選挙に行かないことについて、)私はそんな大人になりたくありませんという記述が読み取れる。

### ②社会的事象に関心を持つ

#### [田原市の政治に関心をもつ、「広報たはら」と「議会だより」の読み取りと温泉掘削現場中継]

児童は田原市でも政治を行っていることを知らなかった。そこで、田原市の政治に関心をもってもらうために、田原市の現状と温泉開発について知るところから学習を進めた。田原市の現状を知るために、田原市全体と旧渥美町の人口減少を示すグラフを提示すると、危機的な状況であると感じたようであった。そこで、「田原市にどうなって欲しい」と問いかけると、児童は、「人口が増えて欲しい」「もっと田原市に人が来て欲しい」と答え、この願いに対して田原市がどのようなことをしているのか調べることにした。

調べ学習の際に活用したのが、田原市が毎月出している「広報たはら」や「議会だより」である。田原市の基本方針や温泉開発を行っていることが読み取れるように、教材として編集したものを準備した。A子は温泉開発について知り、「温泉を掘っているなんて知らなかった」と驚いている様子であった。温泉開発を知っている児童が少なかったため、遠隔教育システムを活用し、【資料5】のように温泉を掘削している様子の中継をつなぎ、開発が進行していることを実感させた。A子の中継後の感想【資料6】を見ると、温泉を掘ることの大変さに気付くと同時に「何でもここまでして温泉を作るのかが分からないし、利益をあげるといって確証がないと思いました。」と書かれ、温泉開発を批判的に捉えていることが読み取れる。この感想から、「どうして温泉を掘ることが決まったのか」という問い①が生まれ、さらに温泉開発について調べることになった。温泉開発を教材化したことで市政について関心をもち、今後の調べ学習をすすめるきっかけとなった。



【資料6】 温泉掘削現場中継後の感想

で、くれなひとかなしいと思いました。なんでここまでして温泉を作るのかが分からないし、利益をあげるといって確証がないと思いました。

#### [温泉開発について知る、市役所とのかかわり]

温泉開発について知り、問い①「どうして温泉を掘ることが決まったのか」を追究するために、遠隔

教育システムを活用し、市役所観光課の中村さんと質疑応答を行った【資料7】。田原市の現状や温泉開発について話をしてもらった。人口減少が田原市の財政悪化につながることや温泉を渥美半島の先端につくる経済効果について児童は興味深く聞いている様子であった。ここで、A子は「温泉を掘っても人が来てくれないと悲しいです。利益をあげる確証がありますか。」と質問をした。それに対して中村さんは、「温泉マークが付くことで、選ぶきっかけになると思っています。しかし、温泉だけでは、人が来るとは思っていません。温泉を使って新しいことをしてもらいたい」と答えた。A子の授業後の感想【資料8】の「温泉には、いろんな人の思いがこめられていると知りました。私はそういう「思い」がわからなかったけど、中村さんの話をきいて、私も何か考えないといけないなと思いました。」という記述から、温泉開発には多くの人の思いが込められていることに気付いたことがわかる。さらに、「最初、温泉をほらなくていいじゃんと思っていましたが、大人の方は温泉のその先（活用方法）も考えていて、大人ってすごいと思いました」という記述からは、批判的だった温泉開発を肯定的に捉え始めていることが読み取れる。市役所観光課とかかわることは、温泉開発への理解を深め、関心を高めることにつながった。

【思いを知る、角上楼とのかかわり】

市役所観光課との聞き取り調査で、温泉開発を要望したのが「渥美商工会」で、地元の旅館「角上楼」の上村さんからの提案だったことを知った。身近な市民の地域への願いや思いを知るために、その上村さんに来校してもらい、児童に話してもらったり、質疑応答したりする場を設けた【資料9】。渥美半島の宿泊施設が120軒から20軒に減った話や昔の「角上楼」は年間の宿泊数が5件しかなく苦労した話を聞いた児童からは驚きの声があがった。ここで、A子は「人気があるのに温泉が必要なのですか」と質問した。上村さんは、「何もしなければ、またお客さんは来なくなる。常に努力し続けなければいけない。渥美半島全体のことを考えると、温泉を起爆剤にもう一度観光業の活気を取り戻したい」と答えた。A子の授業後の感想の【資料10】「角上楼の上村さんは、可能性を見つけ、がんばり、努力をして、すごいと思いました。」という記述からは、温泉開発を要望した人達の地域に対する願いや思いに共感している姿が読み取れる。

【田原市を知る、福江高校とのかかわり】

児童は福江高校の存在は知っているが、観光について勉強していることは知らない。自分たちと年齢が近い身近な市民の考えを知るために、福江高校の生徒とのかかわりの場をもたせたいと考えた。そこで、「広報たはら」を教材として編集した際に、福江高校の普通科観光ビジネスコースの紹介ページを入れた。さらに、福江高校を紹介するビデオを上映し、福江高校について、どのような学習をしているのか知ってもらった。

【資料7】市役所の方と質疑応答①



【資料8】授業後の感想

は、いろいろなることができる。温泉  
 は、いろいろな人の思いがこめられていると  
 知って、私は、そういう「思い」がわからな  
 かったけど、中村さんの話をきいて、私も何  
 か考えないといけないなと思いました。私  
 は、さっきの時、温泉をほらなくていいじゃん  
 と思っていましたが、大人の方は温泉のその  
 先（活用方法）も考えていて、大人ってす  
 ごいと思いました。

【資料9】角上楼の方の思いに触れる



【資料10】授業後の感想

きらめていたと思います。けど、角上楼  
 の上村さんは、そこから「かろうじて」  
 がんばって、がんばる。努力があるので、す  
 ごいと思いました。そんな、きせきの「かかん

角上楼の上村さんの話を聞いた後、児童に福江高校の生徒に温泉開発についてどう思っているか聞きたくないか質問したところ、「聞いてみたい」と返ってきた。そこで、【資料11】のように、遠隔教育システムを活用し、福江高校生との質疑応答の場を設定した。福江高校の生徒は、温泉開発について、「とてもいい。新たなことをするきっかけになる」と答えていた。ここで、A子は「福江高校ではどんなことを勉強していますか」と質問した。高校生は「田原市の魅力を知って、伝えたい」と答えた。田原市の魅力についてさらに聞くと、「人の温かさ」「景色がきれい」「食べ物が新鮮」「自然の豊かさ」と答えた。A子の授業後の感想【資料12】の「福江高校さんが教えてくれた、(田原の魅力)空気がおいしい

【資料11】福江高校生徒と質疑応答



【資料12】授業後の感想

れいな?ここちい空気ではありませんでした。今日、福江高校さんたちがおしえてくれた。空気がおいしいとして、田原は、いろいろなところをみていると、いろいろなはげんがあるんだな~と思いました。

いを知って、田原市のいろんなところを見てみるといろんな発見(魅力)があるんだなと思いました。」という記述から、田原市に住んでいて当たり前だと思っていたことが、実は魅力であったことに気付いた様子が読み取れる。福江高校とかかわりの場を設けたことは、田原市の魅力を知り、田原市に関心をもつことにつながった。

### ③自分事として考える

#### 【アンケート内容を検討する、福江高校とのかかわり】

福江高校生に温泉開発について聞いた際、「市民の意識が大事、市民が温泉開発について協力的でなかったら成功しない」と教えてもらった。そこで、市民の意識に迫るために温泉開発について市民調査を行うことにした。しかし、児童は市民調査をした経験がないので、福江高校の生徒にも協力してもらうことにした。アンケート案に対して福江高校の生徒にメールを使って助言をもらった。アドバイスを生徒一人一人から受け、取捨選択をしながら、【資料13】のようなアンケート作った。

#### 【アンケートを実施する、保護者とのかかわり】

市民調査を行うために、亀山小学校の高学年とその保護者にアンケートを実施した。結果は、「田原市で温泉開発が行われていることを知っていますか」という質問に関して、「知っている」と答えたのは44%にとどまった。また、「温泉開発についてどう思いますか」の質問に対して、「いいと思います」と答えた人は55%であった。この事実を知った児童からは、「やばい」「これで温泉開発は成功するの」という声が上がった。このような児童の危機感から「温泉開発によって市民の願いが実現されるのかな」という問い②が生まれ、これについて考えることになった。

#### 【話し合いを深める、福江高校と市役所とのかかわり】

問い②についてA子は「実現できない」と考えた。理由は「みんながみんな温泉開発をしてほしいと願っていないから」であった。市民も行政も同じ思いで取り組まなければいけないという思いをもっていることがわかる。問い②に対する話し合いには、福江高校の生徒と市役所観光課の中村さんにも参加してもらった。福江高校の生徒には、同じように田原市の観光について考えている身近な市民として、市役所観光課の中村さんには、行政の立場としてゲストティーチャーの役割で話し合いに参加してもらった。遠隔教育システムを活用することで、福江高校、市役所、同時に参加することができた。

【資料13】市民調査アンケート

温泉開発についてのアンケート  
亀山小学校 6年E

目的  
田原市の温泉開発について調べています市民のみなさんが温泉開発についてどう思っているのか知りたいのでアンケートを協力をお願いします。

① どちらか一つに丸をつけてください。  
大人 子供

② 田原市で温泉開発が行われていることを知っていますか?  
知っている 聞いたことがある 知らない  
どうやって知りましたか?  
( )

③ 温泉開発についてどう思いますか?  
いいと思う どちらでもよい よくないと思う  
理由を教えてください。  
( )

④ 田原市に魅力があるとと思いますか?  
ある ない  
どんな魅力がありますか?  
( )

【資料14】が授業記録である。亀山小、福江高校ともに、実現できないという否定的な意見が多かった。それに対し、市役所の方は、「市役所に願いを叶えてもらうのではありません。市役所は願いを叶えるための手伝いをしています。みんなで考えていくことで温泉開発は成功すると思います。元々ある田原市の魅力と組み合わせられるといいと思います」と答えた。そこで、温泉開発を自分事として考えるために、「私達市民にできることは何だろう」と亀山小の児童や福江高校の生徒に投げかけた。亀山小の児童は、自分自身ができることを述べ、福江高校の生徒は市民という大きなくくりで意見を述べた。その中でA子は「温泉開発に関心をもつこと。温泉の話の家でもしたいです。」と発言した。【資料15】は、A子の授業後の感想である。市民が温泉開発に関心をもつことについてA子は、「口で言うのは、簡単だけど、それを行動に移したりや伝えたりしないと温泉や田原市の魅力が分からないのかなあと思いました。」と考え、実際に行動に移すことの重要性に目を向けることができている。そして、「市民の願いを叶えたいなと思いました。」という記述からは、まだ具体性に乏しいながらも、自ら動こうとする様子が感じられる。

#### ④自分にできることを考える

小学生の段階では、自分にできることは限られ、どんなことができるのか分からない。現実にそくした行動に移したいという思いから、市役所の方に温泉活用プラン「田原市の魅力×温泉」を考えることを提案してもらった。児童は、自分事として捉える中で、自分にできることを考え始めていたので、やる気に満ちあふれていた。さらに、教師が「福江高校の人にプランを見てもらってはどうか」と提案すると、児童からは。「見てもらいたい」「その方が安心」という声があがった。そこで、福江高校の生徒にも協力してもらうことにした。

田原市の魅力を探るために、福江高校に教えてもらったことや、市民調査のアンケート結果で出てきた田原市の魅力を確認した。A子は花に注目し、プランをつくることにした。同じような考えをもっている児童とグループを組み、「具体的な内容」「プランを考えた根拠」「田原市がどうなるのか（ハッピーポイント）」の3つの観点でプランを練ることにした。【資料16】がA子のグループが考えたプランである。プランは「花×温泉」で、「温泉と花が有名になり、農家ももうかる」と書かれており、市民（花農家）も関心をもてるような内容になっており、話し合いで学んだことを意識している様子が分かる。遠隔教育システムを使い、福江高校の生徒にできたプランについて考えてもらった。「出荷できない花を温泉施設が買い取るというよ」というアドバイスをもらい、プランに書き加えた。福江高校と一緒に考えることでよりよいプランにすることができた。

#### ⑥社会的事象に関心を持ち続ける

亀山小学校に市役所観光課の中村さん来てもらい、順番にプランを評価してもらった。A子の班「花

【資料14】授業記録

T できないという意見が多いですが、市役所の方はどう思いますか。

C 市役所に願いを叶えてもらうのではありません。市役所は願いを叶えるための手伝いをしています。みんなで考えていくことで温泉開発は成功すると思います。元々ある田原市の魅力と組み合わせられるといいと思います。

T じゃあ私達市民にできることは何だろう。福江高校の人も考えて下さい。

A子 温泉開発に関心をもつこと。温泉の話の家でもしたいです。

(中略)

S3 温泉を一時的なブームにせず、市民1人1人がアイデアをもって、取り組むことが必要だと思います。

【資料15】授業後の感想

ました口で言うのはかんたんたけどそれを行動や伝たりしないと温泉や田原市の魅力が分からないのかなあと思いました。かのうせいをひろめて、市民の願いをかなえたいなと思いました。

市役所  
亀山小  
福江高校

【資料16】プラン①

○○・温泉	花×温泉
具体的な内容	花農家が花を温泉に持っていく。花の温泉に入っている時音楽を流して、いよな空間を作る。場所は、花の種類による。
プランを考えた根拠 (情報となる資料や観察等)	他の温泉地での花がいろいろ生れるから。音楽を聞く心落ちつくから。茶の花祭りがす有名だから。おもにキク、バラ、あじさいなどの花が有名だから。他の温泉地は、お湯の温など花をうかべて成功しているから。
温泉がどうなるか (ハッピーポイント)	温泉と花が有名になり、農家ももうかる。すてに、有名な茶の花祭りとコラボができる。温泉に花を入れて、その花の美しさや、香りで、その花を気に入って買ってくれる。

×温泉」は花農家さんが温泉開発に関心をもってくれるというところを高く評価してもらった。もっとよくする方法として、花を使った体験と温泉とを組み合わせるとよいということも教えてもらった。A子の感想【資料17】には、「(同じ花でも、)花を見られますとか、花の温泉がありますとか、フラワーアレンジメントがありますとかあると、違う目的が生まれ、もっとお金を使ってくれると思いました」とあり、さらにプランをよくしたいという思いが出ていた。【資料18】は中村さんへのお礼の手紙である。「温泉に反対している人もいますので、その人たちも、温泉に関心をもってほしいです。田原市の人々が田原を愛さなければいけないと思いました」という記述から、市政に関心をもたなければいけないという気持ち、「温泉をもっと魅力的にして、「また来たいな」「この温泉よかったな」となってほしいです」という記述から、現状のプランに満足していない様子、「私は、家族やいここに、温泉の魅力を伝えて、入りにいきたいです」という記述から、自分にできることをしていこうとする姿が分かる。これらの姿から今後も温泉開発に関心を持ち続ける様子が読み取れるとともに、市民の一員として市政に関心を持ち、社会参加していることが感じられる。このようにA子が成長したのは、社会参画の段階に合わせて意図的に仲間とかかわらせてきたことや、遠隔教育システムを活用し、何度も福江高校と市役所とかかわることで、心のつながりが生まれ、田原市を活性化したいという思いに寄り添うことができたためである。

【資料17】授業後の感想  
 ました。例えば、花をみたくて花の温泉ありますよ。や、フラワーアレンジメントありますよ。とあると、ちがった目的が生まれ、もっとお金を使ってくれると思いました。

【資料18】中村さんへのお礼の手紙  
 市役所 中村さんへ  
 温泉のことを教えていただきありがとうございました。一番びっくりしたのが、可能小生が無数にあることです。温泉に反対している人もいますので、その人たちも、温泉に関心を持ってほしいです。田原市の人々が田原を愛さなければいけないと思いました。温泉をもっと魅力的にして、「また来たいな」「この温泉よかったな」となってほしいです。私たちがプランを考えたので、ぜひ使ってください。私は、中村さんの説明がとてもわかりやすかったです。そのおかげで疑問が生まれても、温泉が知りたくなりました。私は、家族やいここに、温泉の魅力を伝えて入りにいきたいです。これまで、ありがとうございました。

## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

田原市の観光政策の一つである温泉開発を教材化することで、様々な立場の人の思いに触れることができ、田原市の政治に関心をもつことができた。また、社会参画の段階を分けることで、目標がはっきりとし、有効的に仲間とかかわらせることができた。遠隔教育システムを活用することで、何度も仲間とかかわることができた。単元の最後にアンケート【資料1】と同じものを行うと、国・田原市、ともに政治に関心があるかどうかの質問に対して、5段階で5の評価であった。

### (2) 今後の課題

遠隔教育システムの活用した話し合いの方法が難しかった。今回は三者（亀山小、福江高校、市役所）が話し合いに参加したため、亀山小の児童の活動の場が減り、聞く場が増えてしまった。事前にしっかりと打ち合わせをし、教師が上手に司会・進行していく必要がある。

## 6 おわりに

単元終了後の11月26日、田原市で温泉が出たという報道があった。それを知った児童からは、「2億円が無駄にならなくてよかった」「温泉がこれからどう使われるか楽しみ」という声が続々とあがった。温泉開発に関心を持ち続けている様子が分かりうれしく思う。政治に関心をもつことは、よりよい社会をつくるうえでとても大切なことである。児童には今後とも、よりよい社会づくりのために、考え行動してってもらいたいと切に願う。